



萌 木

9 月 号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校 長 山 田 勝

令和8年9月4日発行

「苦」から「楽」へ

校長 山田 勝

晴れ渡り力強い夏空が広がった夏休みはあっという間に過ぎていき、新学期が始まりました。心落ち着く優しい秋空ではない雲の多い日々ですが、1，3学期とは違い気持ちを入れ替えにくい中「頑張ろう」という気持ちを持ち寄り七中生の2学期の始まりです。

1学期にともに頑張ることの力を思い出し、2学期はさらに自身の成長を楽しむ気持ちで学びを進めてほしいと思います。そのことを踏まえながら、2学期の始業式では次のように話しました。

1学期の始業式は学年が進み、新たな夢や目標を持って臨みます。3学期の始業式は年越し・正月を経て、気持ちが新鮮な中で迎えます。よし、今日からこのように頑張ろうと、気持ちが切り換えられて新鮮な思いの中での始まりです。それに対し2学期の始業式は昨日までとあまり変わりがなく暦の変化だけで迎えています。かえって、夏休みにもっとこうしておけばよかったなどと後悔を引きずっていることもしばしばです。

新しい学期が始まりますが、今日は「今ここにいる」それだけで十分です。頑張っここにいる自分、それと同じくらい頑張っここに集まっている多くの仲間。その仲間がいることを意識して、新学期を迎えてほしいと思います。

自分を励ます仲間の存在、仲間を励ますことができる自分。その力を何回も実感してきた関係を思いだしてください。2学期の始業式では、その気持ちを感じられることが一番大切なことなのです。頑張る気持ちを整えることが大事です。そのクラスや学年、七中の仲間とともに2学期も色々なことに挑戦し、多くのことを学びましょう。

1学期の終業式では、「時間に縛られず学びに向き合う場面を作り、自分のペースで取り組む、そのことを楽しんで自分の成長につなげることに挑戦してほしい」というお話をしました。自分の成長を楽しめるようにするためにも学びの幅を広げていってください。そのためにも仲間と一緒に学ぶ場面を大切にすることが必要になります。夏休みの間に取り組めた人もそうでない人も、2学期の学習では自分の成長を楽しむことに挑戦してください。

自分が成長することで、周りのみんなも刺激を受け成長する。周りの成長を感じ、自分も自分の力を伸ばすことを意識しさらに成長する。

こんなに楽しく、素晴らしいことはありません。仲間がいる、自分がいる。そのことを大事にすることが、共に学ぶ場である学校の一番大きな力となることです。

自信をもってこの場での学びを進めていってください。

さらに七中生が成長する2学期を楽しみにしています。【一部略】

「校歌」に寄せる思い①

櫟　をわたる風さやか
豊かな大地をなでてゆく
白くそびえる学び舎に
笑顔があふれ歌なかれ
肩組みながら学ぶ時
あゝ　七中に光あれ

七中の校歌は開校当初に歌詞を生徒・保護者・教職員・市民に公募し、保護者の方の作品に、作曲家の中田一次先生と委員で歌詞を補作し曲ができたそうです。

50年この歌が歌い継がれてきましたが、その時々でいろいろな思いが託されてきたことと思います。現在この一番の歌詞にはどのような思いが隠れているのでしょうか。「校庭にそびえる櫟並木を抜け、さわやかな風が社会から夢や知識、情報を七中の校舎に届けて

くれている、それを受け取り笑顔で歌うように自分の力として吸収している、七中で仲間と共に成長している、その力が光となって世のなかに飛び出していく力強い七中生。」と解釈してみました。